

子どもの本

研究会



【私の一冊】

対訳『ホイットマン詩集』アメリカ詩人選(2)

木島 始・編集(岩波文庫/岩波書店)

倉岡 寿雅子

中学生の時、文芸部の先生の家に遊びに行った。五人くらいで行ったと思う。先生の部屋の本棚にはたくさんの本がならんでいた。先生が、「詩集の中から、好きなのを一冊、あげる。選んでいいよ」と、言った。文芸部のお別れ会だったのだろうか。詳しいことは忘れてしまったが、私が選んだのは『ホイットマン詩集』だった。詩集は、最初に写真のページがあって、そこに一編の詩が紹介してあった。そして、最後のページには、その詩の朗読の「ソノシート」が、ついていた。そこに紹介されていた詩「開拓者よ！おお、開拓者よ！」。その朗読の、力強い声。私も颯爽と行進していくような気もちになった。それを聞いて、多分、「ホイットマン」を選んだのだと思う。「俺」という字を「わし」と呼んでいることに、少しの違和感を感じながら、何度でも聞いていると、気持ちが高揚してきたことを覚えている。高校になって、親元を離れて生活することになり、寂しくなった時、気持ちが滅入ることがあった時など、よく、この詩を声に出して読んでいた。「さあ俺の黒く陽にやけた子供たちよ、整然と、しっかりついておいで、お前たちの得物を用意しろよ、ピストルはもったか。鋭い刃のついた斧はもったか。開拓者よ！おお、開拓者よ！」この最初の連は、還暦を過ぎた今でも、その詩集がどこにあるのか分からなくなった今でも、声に出して言うことができる。

今、「開拓者よ！」と、自分を励ますことは、あまりなくなりましたが、この詩集を手にしたことがきっかけだろうか、いろんな詩を声に出して読む時間は、私の心地よい時間である。

(特定非営利活動法人 熊本子どもの本の研究会 会員)